

くりんく

『くりんく』とは「栗原をリンクする」の意味。
Link リンクとは、つなぐこと。連結すること。連鎖。

発行:栗原市在宅医療・介護連携支援センター
住所:栗原市築館宮野中央三丁目1番地1
TEL:0228-21-5357
FAX:0228-21-5358
メール:zaitaku@kam.or.jp



在宅センター
QRコード

2025年も残りわずかとなりました。皆さんにとって、今年はどう的一年でしたか。当センターの事業が、新たな繋がりやこれまでの結びつきを深める機会となりましたら幸いです。さて、今回のくりんく21号は、10月から12月の開催事業についてご報告いたします。毎回、多くの皆様にご参加いただき改めて感謝申し上げます。師走の忙しい時期ではありますが、たまには一息つきながら皆さんでご覧くださいませ。

令和7年度医療と介護の市民向け勉強会『心づもりお話会』 参加者 130名

11月29日(土)、栗原市若柳公民館を会場に、医療と介護の市民向け勉強会『心づもりお話会』を開催しました。岩手県立中部病院 副院長 緩和ケア医 星野彰先生を講師にお迎えし、『幸せに年を重ねるために人生の心づもりをしませんか?』というテーマでご講話を頂戴しました。「なぜ、心づもりが必要なのか?」から講話が始まり、北上市の「わたしのきぼうノート」(エンディングノート)の作成から完成までについてお話しをいただきました。グループワークでは、参加者が「わたしのきぼうノート」を実際に書き進めながら、お互いの思いを話し合うことでより具体的に「自分のこれからの人生」について考えてみる機会となりました。「前向きにこれからの人生を考える機会になった」「星野先生の話術に引き込まれ、楽しく話を聞くことができた」などの感想が寄せられ、盛会裏に終えることができました。また、当日は運営スタッフとして16名の専門職の方々にご協力を賜り、無事に開催できましたこと心より感謝申し上げます。



【講師】岩手県立中部病院 副院長
緩和ケア医 星野彰先生



栗原市医師会 会長 宮城島堅先生(左)と、栗原市立栗原中央病院 院長 中鉢誠司先生(右)にご挨拶を頂戴しました。



満員御礼!

(👉 写真左)準備していた資料が不足するほど、たくさんの方々にご来場くださいました。(写真右 👉)グループワーク「書きっこ会」では、グループリーダーが中心となり、和やかな雰囲気です「わたしのきぼうノート」を書き進めていました。



令和7年度市民向け勉強会 人生の心づもりお話会 大成功～!



星野彰先生、ご協力いただいたスタッフの皆さん、ありがとうございました!

医療の知識を深めよう！令和7年度医療勉強会



医療と介護の専門職者がお互いの専門性を活かし知識を深める医療勉強会を、今年度も開催しております。今回は9月の『認知症』、10月の『口腔ケア』、12月の『感染症』についてご紹介いたします。また、今後の勉強会の予定も掲載しておりますので、ぜひご参加ください！



第5回
(9/16開催)
テーマ『認知症』
参加者50名

【講師】
みやぎ認知症応援大使
遠藤 実 様(右)
支援者 遠藤麻由美様(左)

第6回
(10/15開催)
テーマ『口腔ケア』
参加者21名

【講師】
栗原市歯科医師会会長
川井歯科医院 院長
川井 一行 様



認知症と診断され苦しかった日々から、みやぎ認知症応援大使として活動する現在に至るまでの気持ちの変化を、大好きな歌に合わせてお話くださいました。力強い実さんの歌声に、会場は大盛り上がりでした！

義歯洗浄の手順や用具、誤嚥を起こす原因など、幅広く丁寧にお話くださいました。実際に口腔内の細菌を顕微鏡で見るといふ医療勉強会初の試みに、皆さん興味津々でした💡

第7回
(12/16開催)
テーマ『感染症』
参加者55名

【講師】
栗原市立栗原中央病院
感染管理認定看護師
寺嶋 勉 様



感染症の基本的なお話から、インフルエンザに罹患しやすいタイプとその予防策、明日からすぐに実践できる感染対策まで、盛りだくさんの内容の講話でした。これで元気に年を越せそうです！💪

医療勉強会 今後の予定

- 【第8回】1/20(火) 18時～姫プラザ
テーマ『訪問リハビリテーションのはなし』
- 【第9回】2/17(火) 18時～栗原中央病院
テーマ『薬のはなし』
- 【第10回】3/17(火) 18時～姫プラザ
テーマ『在宅医療のはなし』

※内容は変更になる場合もございます。予めご了承ください。

皆様のご参加を
お待ちしております！



『ACP・DNARに関する意識調査』へのご協力、ありがとうございました！

10月上旬から中旬にかけて、栗原市内の医療機関(市立病院・開業医)、歯科医院、保険調剤薬局、地域包括支援センター、介護サービス事業所、社会福祉協議会、栗原市消防の方々にご協力をいただき、『ACP・DNARに関する意識調査』を行いました。約470件に調査用紙を配布し、381件の回答を頂戴しました。(※一カ所の事業所につき、複数名の回答有り)診察をする医療側、利用者様の日常を見ている介護側、そして実際に救急搬送の現場に立ち会う救急隊員、それぞれの立場からの意見が凝縮されたアンケート結果となりました。この結果を受け、栗原市の医療・介護連携の深化に繋がるような事業に取り組んで参ります。お忙しい中ご協力をいただき、ありがとうございました。

【編集後記】熊鈴というものを初めて身に着けました。栗原市においては、銀座一丁目のような場所に住んでいるにもかかわらず、帰宅時はジャラジャラと鳴らしながら車から玄関に入るまで緊張の毎日でした。心づもりをしても想定外だらけの世の中ですが、せめて新年を迎えるこの時期は心づもりを新たにしてみたいと思います。来年は天高く駆ける午年。皆様よいお年をお迎えください。